

■生徒の学力の状況

○令和8年度全国学力学習状況調査の結果より、全国及び東京都の平均正答率は上回ったものの、「学力の二極化」の傾向を示している。特に、数学等の積み上げ型の教科は、この傾向が強い。

○課題に対して自己解決に向けて、他者との意見交換は図れるが、自分の言葉で言語化することに課題がある。

○不登校傾向の生徒や外国籍の生徒、特別な支援が必要な生徒の割合が高くなってきており、これまでの指導だけでは理解が不十分である。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、そのためのツールとしてICT機器を活用した支援を推進すること。

○自己調整型の学習に進んで取り組むこと。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○自立した学習者をめざして、自己調整学習の授業展開を行う。

○板橋区授業スタンダードの推進と読み解く力の育成、および板橋区授業スタンダードSの積極的な実施と推進を図る。

○生徒の思考を促すため、教師の意図により、考え方を焦点化したり、引き出したりする発問、あるいは、ゆさぶりや問い返しを用いて発問の質を高め、子どもの思考を促す。

○ICT機器を使って工夫しながら資料として視覚的に提示することによって、論理的・合理的・効果的に追求し、生徒の「思考を深める」。また、多様に考えを作り出し、「思考を広げる」よう活用する。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○「自己選択、自己決定、自己調整」できる授業を実施し、生徒の自己学習能力を育成する。	○Input-Think-Outputの授業展開において、目的に応じてICTを活用しながら、言語活動で知識や情報をThinkすることを通してOutputする力を高める授業づくりに努める。	○総合的な学習の時間で身に付けた資質や能力、態度等を各教科の学習において生かしていけるよう、各教科等の指導についても見直し、指導の改善を図る。

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○総合的な学習の時間について、環境教育におけるSDGs教育の視点を踏まえ、学びのエリアの共通項などを探る研修会を実施し、カリキュラム・マネジメントの推進を図り、質的改善をめざす。	○特別活動や道徳の時間等を活用し、構成的エンカウンターを取り入れる等、コミュニケーション能力の育成を図り、人間関係をより良く形成する態度を養い、自尊感情、自己肯定感を高める。	○「生徒が創り上げる学校行事」を展開し生徒の心を揺さぶり感動体験を実施し、生徒の主体的態度を育成する。
○学びのエリア研修会で、板橋区授業スタンダードSの自己調整学習について研修する。	○体力向上、および健康で充実した生活を送るための力の育成、食育の推進を図る。	○プラスルーム等の居場所を確保し、学びの多様性に対応できる環境と組織的な運営の充実を図る。
○郷土愛の取組について、指導の共有化を図る。		